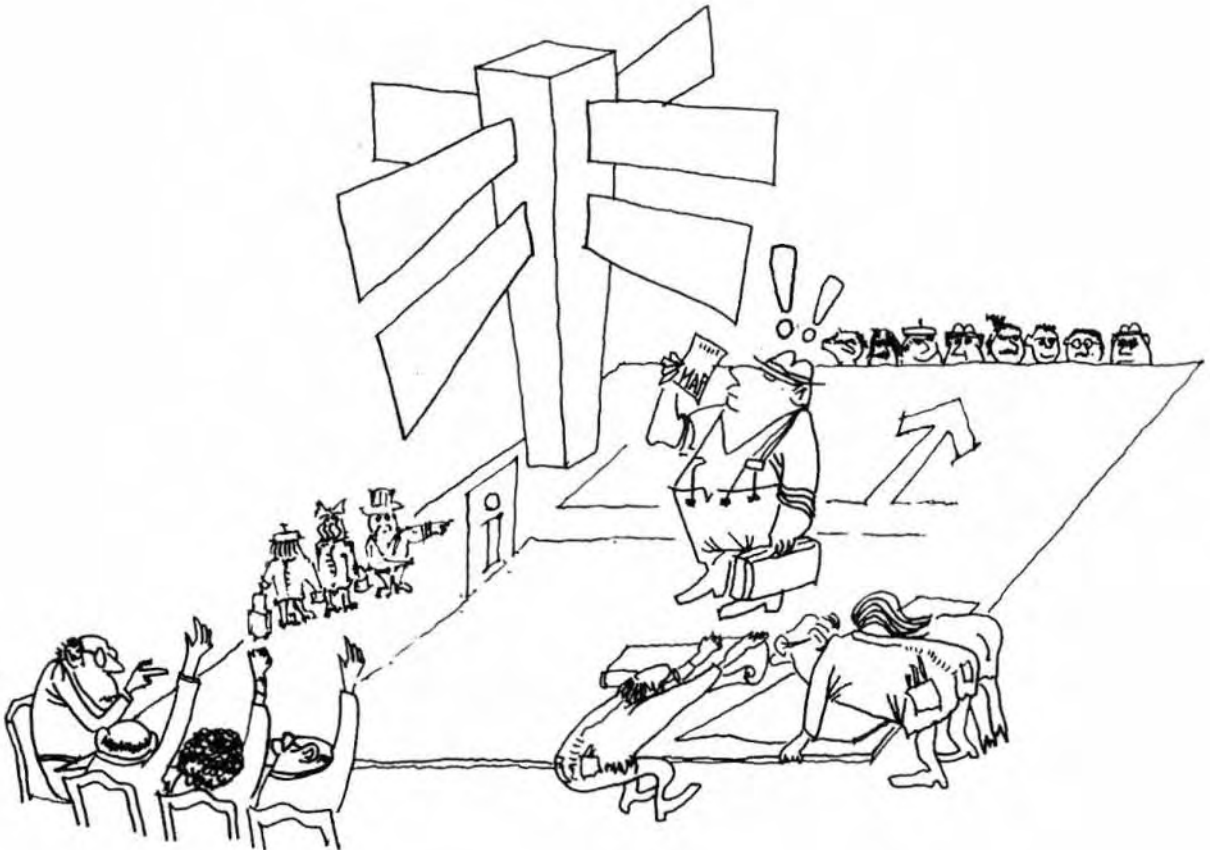


# 「コミュニティサイン」 整備の実践に向けて

## 社会実験編

街なかに何があり、そこに到達するにはどうすればよいのかに応えるサイン整備は、単なる目的地までの誘導を超えて、生活文化の体験につながる可能性を秘めています。

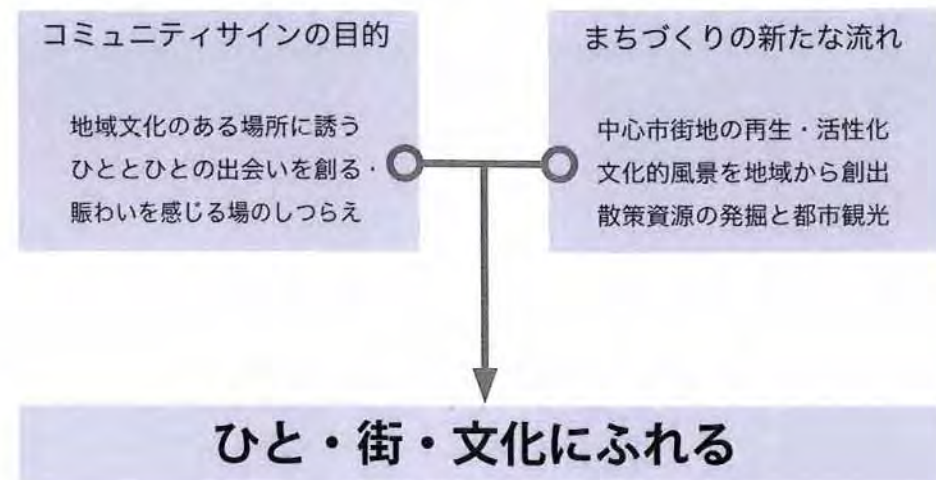
コミュニティサインは、街の魅力を見せ、その文化を語り、人と出会う機会を提供することで、賑わいづくりに貢献します。





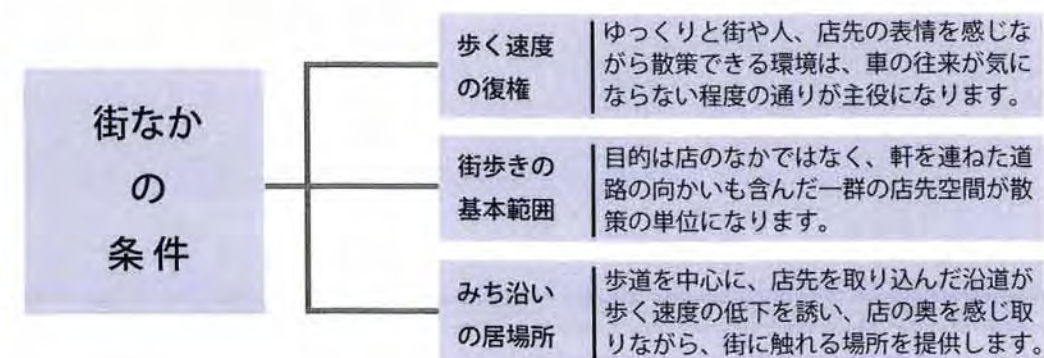
## まちづくりを見ずえたコミュニティサイン

- 長い時間をかけて培ってきた街の中心（街なか）に焦点をあて、多彩な魅力の発掘と新たな賑わいの創出を目指し、人との出会い、文化とのふれあいの機会を提供することが、コミュニティサインのねらいです。
- まちづくりのこれまでとこれからの新たな流れに同調して、コミュニティサインの基本的な考え方に独自の整備の目的を加えることで、「ひと・街・文化にふれる」ことのできる街なかを実現します。



## ひと・街・文化にふれる街なかの条件

- 街の魅力を感じ取り、人や文化に触れるためには、人の尺度に見合った領域のまとまりとそこに触れる人の歩く速度が重要です。
- そのため、ひとつの店の魅力ではなく、軒を連ねるまとまった表情づくりと沿道空間での人々の居場所をしつらえることが求められるようになります。
- 街なかの構成をこのような視点で見直し、こうした場所にコミュニティサインを設置することで効果を上げます。



## 街の賑わいを誘う表示内容の考え方

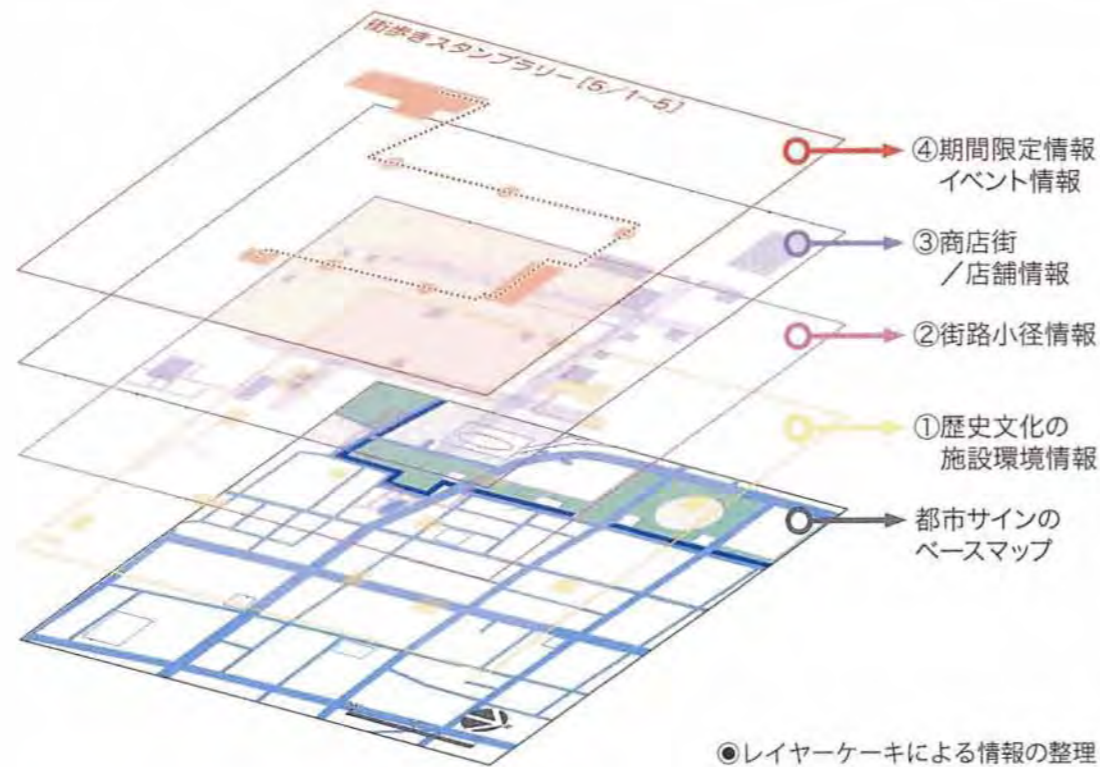
- 個人やグループでの街なか散策は、街歩きの基本的なルート設定と表示内容の組み立てで、街を楽しみ、歴史や産業文化を体験し、地元の人々とふれあうことに結びつきます。
- 身の丈サイズの魅力的な場所を確認し、その自由な利用をうながすことで、訪れる人々と地元の人々との緩やかな交流が生まれます。
- コミュニティサインには地域交流を目指す点で、都市サインとの違いがあります。



- これらの項目は、コミュニティサインに掲示する情報内容として「街歩き」に役立つものです。コミュニティサインの盤面は限られた面積ですから、詳しい解説や情報の追加は、ハンディマップなどを連携して利用し、さらに地元の人々との交流を通じた生の情報を取り入れることで、新たな街の体験が実現します。
- コミュニティサインは、サインの設置／ハンディマップでの補完／地域の人々との交流による新たな体験という一連の流れにより完成します。

## 多彩な情報を盛り込んだコミュニティサインの維持管理

- 都市サインでは、短時間で目的地に移動することに主眼がおかれるため、独自の魅力や地域と来訪者の交流につながるような情報提供が見受けられませんでした。
- コミュニティサインが提供する街の魅力は、多くが民間や地域の人々の活動に支えられたものになります。
- そのため、まちづくりの活動やイベントをになう商店街や市民グループが受け皿となり、商店街の紹介やイベント情報の提供といった民間情報・期間限定情報を表示する仕組みを構築することで、これまでにない魅力情報の提供が可能になります。



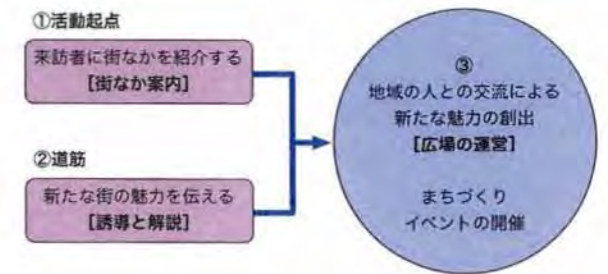
- コミュニティサインで提供される情報は、情報を掲示するベースとして都市を構成するマップが必要になります。これは公共情報として位置づけることができます。
- 一方、①に代表される情報は、行政の関連部局が提供するもので、情報に時間軸や生態系環境などを加えることができます。
- 民間情報としては②のように沿道型商店街の協力と取りまとめ、③のような商店振興会などの団体が受け皿になる情報提供も考えられます。
- 期間限定情報は、来訪者向けのイベントや各種の告知情報などのスペースです。
- 情報の層ごとに掲載に係るスペース提供を有料化することで、情報の更新と情報掲載に係る維持管理費の一部負担が実現できます。

## コミュニティサインの必要性を実感できる社会実験導入の仕組み

- 次第に試みられるようになった社会実験は、実際に設置されるものに近いモデルを臨時に設置し、利用者の体験を通して評価をつかむことができます。
- 社会実験の実施に際して、市民参加で街のどのような魅力を伝えたいかなどを議論し、地元の意見を取入れた表示内容の効果を実証することができます。
- コミュニティサイン研究部会の活動では、次のような提案例があります。

## 【社会実験の構成】

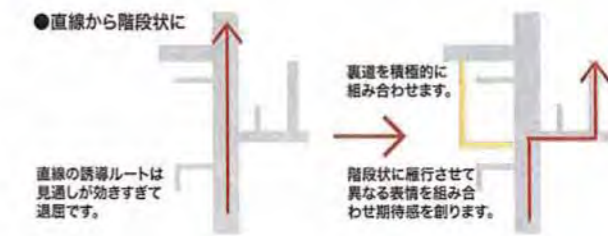
- ① 地域を訪れる人々に、街なかへと誘う仕組みを提供します。
- ② 通りや小径を散策しながら、沿道の魅力を体験することができます。
- ③ 地域との交流による新たな魅力を伝えるために、街なか広場ではまちづくりイベントを開催します。



## 提案 1 街なかの奥までめぐることのできる「回廊」を創ろう

## 【街なか回廊】

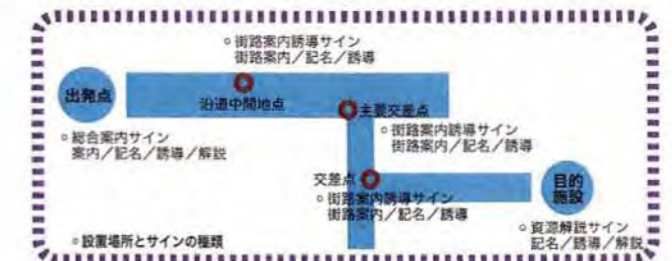
今の街なかには、限られた街路に多くの人々が集中しています。街なかの道を組合せ階段状の回廊を創ることで、様々な表情を感じとることができます。コミュニティサインに回廊を表示することで、街の多くの表情に触れる機会を提供します。



## 提案 2 街なかの魅力を発見できる案内サインを創ろう

## 【街なか発見】

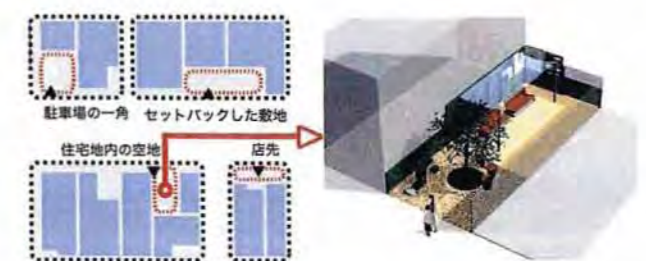
都市は文化の記憶装置です。初めての道に誘われることは、独自の魅力の発見につながります。街の構成や歴史、生活文化、さらに新たな出来事を伝えるコミュニティサインは、都市文化を理解しながら、豊かな時間を過ごすことができます。



## 提案 3 色々な大きさの「街なか広場」を創ろう

## 【街なか広場】

街なかには様々な隙間があります。気軽に立ち寄り、しばらくの時間を過ごすことのできる小さな広場を創ることで、街の楽しみや出会いが増えます。コミュニティサインが、こうした広場を積極的に示すことで、新たな賑わいが生まれます。



## [社会実験による効果]

- ◎ベースマップに必要情報を掲載し、色や文字の見やすさ、内容の過不足などを実際に確認することができます。
- ◎サイン本体を原寸で確認することで、実際の大きさ、設置場所の適否、過不足などを確認することができます。
- ◎関連情報・民間情報の収集体制づくり、掲載費用の設定などの実証体験を行うことができます。
- ◎イベントと組み合わせることで、期間限定情報の効果を確認することができます。
- ◎社会実験後に暫定整備のルートに対して本設置に向けた追加の検討事項を確認することができます。

## [コミュニティサイン研究部会参加会員]

岩崎電気株式会社  
株式会社キクテック  
株式会社コトブキ  
信号器材株式会社  
住友スリーエム株式会社  
星和電気株式会社  
積水樹脂株式会社  
野原産業株式会社  
保安工業株式会社  
ヨシモトボール株式会社  
(有)GHd  
[五十音順]

都市づくりパブリックデザインセンター  
では会員企業の協力のもと、社会実験の  
お手伝いをしています。

URBAN DESIGN CENTER, JAPAN  
<http://www.udc.or.jp> 2007.12. 2000

## コミュニティサイン研究部会 活動のあゆみ

### ●平成2年度～平成8年度

『歩行者のためのコミュニティサイン』出版  
「多層空間におけるサインのあり方」事例研究  
「五感に訴えるサイン 新技術の事例研究」勉強会

### ●平成9年度～平成11年度

「サインマニュアルに関するアンケート調査」の実施  
「アンケート調査・詳細分析」  
「自治体へのヒアリング、意見交換、現地見学」の実施  
『コミュニティサイン・データブック』の出版

### ●平成12年度～平成14年度

「自治体へのヒアリング、意見交換、現地見学」の実施  
『コミュニティサイン・データブック 2002』の出版

### ●平成14年度～16年度

『コミュニティサインは』のリーフレット制作、配布  
公共団体との交流（山形県、神奈川県）  
提案対象地域（コミュニティサイン提案計画策定）…千葉県柏市  
千葉県柏市への提案内容を検討  
柏市に提案を報告、市制50周年記念シンポジウムパネル展示

### ●平成16年度～18年度

群馬県高崎市現地調査、提案内容を検討  
提案対象地域（コミュニティサイン提案計画策定）…群馬県高崎市  
高崎市ヒアリング、提案内容を検討、社会実験実施  
高崎市役所で実験内容、アンケート結果のパネル展示  
高崎市にコミュニティサインのあり方の提言を報告

社会実験 ヒアリングとアンケート調査 / 高崎市



財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター

東京都千代田区二番町 12-12 BDA 二番町ビル 2階 〒102-0084  
TEL 03-3222-0981 FAX 03-3222-0986